

I 2学年の授業実践

第2学年 体育科学習指導案

平成30年11月7日(水) 第5校時

高知市立十津小学校

2年1組 児童24名

授業者 永橋 京

西村妃代

岡崎隆太

「ゆらゆら、くるりっ！十津忍者、修行へゆく！」の巻

1 単元名 固定施設・鉄棒を使った運動遊び (B 器械・器具を使つての運動遊び)

2 単元の目標

(1) 知識及び運動

固定施設を使った運動遊びでは、登り下りや懸垂移行、渡り歩きや跳び下りを行うことができる。

鉄棒を使った運動遊びでは、支持しての上がり下り、ぶら下がりや易しい回転を行うことができる。

(2) 思考力、判断力、表現力等

器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。

(3) 学びに向かう力、人間性等

運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができる。

3 授業づくりの構想

〈運動の特性〉

固定施設・鉄棒を使つての運動遊びは、支持やぶら下がり、手足での移動、逆さの姿勢、振動、回転などをして遊んだりすることで、自分の力にふさわしい動きの運動遊びを楽しく行うとともに、基本的な動きや技能を身に付けたり、動き方を工夫したりすることに喜びを味わうことのできる運動である。

それぞれの器械・器具の条件のもとで、支持、ぶら下がり、振動、手足での移動、逆さの姿勢、回転など、日常生活では通常行われない動きを含んだ運動遊びを行うことが特徴である。自分の体で多様な遊びを創造できる器具でもあるので、様々な動きができるようになると楽しさが一段と増し、次の動きへの意欲につながる運動である。

〈児童の実態〉

○男子12名 女子11名 計23名

○態度、意識面〈事前アンケート〉

	全体評価	評点
楽しむ	13.826	5
わかる	12.565	5
できる	12.087	5
まもる	14.696	5
合計	13.82609	5

○本学級の児童は、体育の授業に意欲的に楽しみながら取り組むことができる。休み時間にも元気に外遊びをする児童が多い。友達のよい動きを見つけることができる。

○1年時の鉄棒遊びでは親しみを持って活動したが、支持から前に倒れることに怖さを感じる児童や、腰骨の位置での鉄棒へのぶら下がりができず、痛さから不安に思う児童もいた。1学期に行った鉄棒への跳び上がりでは2名は補助が必要な実態であった。

○体育アンケートでは、全ての項目において高い評価となっているが、わかる・できるの2項目については弱さがあり、事前の鉄棒についてのアンケートにおいても、「できないから鉄棒が嫌い」と答えた児童が数名いた。

〈めざす子どもの姿〉

動きのおもしろさを感じ、仲間とかかわりながら、進んで固定施設・鉄棒を使つての運動遊びに取り組む子ども

4 主題にせまる具体的な手立て

(1) 魅力ある教材の工夫

○単元構成の工夫

児童が夢中で挑戦しながら、支持、ぶら下がり、逆さ姿勢、回転などの基礎的な動きを身に付けていくことができるように楽しい動きを取り入れた運動遊びに取り組みせたい。そこで児童が「忍者」となり、固定施設・鉄棒の「忍法（動き）」を習得するための「修行」に出掛けるというストーリー設定で運動遊びに取り組むようにする。

単元の前半では、鉄棒・雲梯・登り棒の3つの場を1時間に2カ所ずつ使って遊びながらみんなで「忍法（動き）」に挑戦していく。単元の中盤は1時間の中で3カ所をグループでローテーションしながら、「忍法（動き）」に挑戦したり、できるようになった動きを工夫（方向・回数・シンクロなど）したり、組み合わせ（2つ以上・繰り返し）たりして楽しむ。

○場や教具の工夫

児童がいろいろな動きを工夫しやすいように鉄棒・雲梯・登り棒の3つの場をローテーションしながら取り組むようにする。また器械や器具の高さや硬さによって恐さや不安を取り除くため、マットを器具の下に敷いたり、器具にカバーを巻いておなかやひじが当たる痛みを和らげたり、易しい場や集団で取り組む場を設定したりする。

運動遊びを楽しく行えるように鉄棒・雲梯・登り棒の3つの場にそれぞれ達成テーマを設定する。

鉄棒	雲梯	登り棒
3つの高さから自分に合う高さを選ぶことや1欄の鉄棒をペアで使うこと、跳び上がりのできない児童は台を使っていいこと、恐さや痛みを取り除くマットや鉄棒カバーの使用などの確認をし、どの子も安心して取り組めるようにする。鉄棒では、じゃんけん遊びをしたり、様々な動物たちに変身したりしながら動きを発見できるようにする。	10本ごとに色分けされているため、どこまで進めたか目標意識を持たせて取り組みせたい。懸垂移行で進む際は色の変わり目まで進むと下に置いた台に立てるようにする。途中で置かれた台で立つことなく渡りきることができるようにする。	登る意欲を掻き立てるために目標物を吊るす。吊るす目標物の高さを変えて個々の力に応じて課題を選択できるようにする。

(2) 運動の特性に応じた動きづくり

基礎技能の学習としての運動（遊び）になるように、1欄の鉄棒に2人ペアで入り鉄棒じゃんけんを行う。じゃんけんをして勝つごとに「だんご虫じゃんけん→鉄棒への跳び上がり→つばめ→ふとん干し→つばめ→跳び下り」の順に動いていく。単元を通して授業のはじめに行うことで「忍法（動き）」を習得する上で必要な基礎となる感覚や身体操作を身につけていく。

単元の後半では、いくつかの動きを繰り返したり、組み合わせたり、ペアで動きを合わせたりする工夫を楽しみながら動きを広げていく。

(3) 言語活動

児童がだれとでも仲よく、工夫して楽しんだりすることができるように、活動するペアやグループは固定せず、毎時間、新たなかわりができるようにする。

鉄棒・雲梯・登り棒の3つの場所をグループでローテーションしながら、動きのポイントを発見したり、組み合わせで工夫したりしている姿を取り上げ、全体共有していく。また、具体的な達成基準を示して、ペアで数を数え合ったり、動きをそろえて繰り返したりできるようにする。さらに動きのポイントをイラストで示し、それをもとに自分たちの動きを確認し合い、共に学び合うことの良さを感じられるようにしたい。

5 単元の評価規準

	知識及び運動	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
内容のまとまりごとの評価規準	鉄棒や雲梯，登り棒を使った跳び上がりや跳び下り，ぶら下がりや回転，回り下り，いろいろな登り下りや懸垂移行，逆さの姿勢などの行い方を知り，遊ぶことができる。	- 遊具・鉄棒遊びの行い方を知り，楽しく遊ぶことができる場や遊び方を選んでいる。 - 遊具・鉄棒遊びの動き方を知り，友達のよい動きを見つけている。	- 遊具・鉄棒遊びに進んで取り組もうとしている。 - 運動の順番やきまりを守り，友達と仲よく運動しようとしている。 - 用具の準備や片付けを友達と一緒にしようとしている - 遊具・鉄棒の使い方や場の安全に気をつけようとしている。
学習活動に即した評価規準	①鉄棒や雲梯，登り棒を使った跳び上がりや跳び下り，ぶら下がりや回転，回り下り，いろいろな登り下りや懸垂移行，逆さの姿勢などの行い方を知り，遊ぶことができる。	①工夫した楽しい遊び方を友達に伝えている。 ②友達のよい動きを見つけ，自分の動きにつなげている。	①動きの習得に進んで取り組もうとしている。 ②きまりを守り，友達とぶつからないように安全に気をつけようとしている。

6 指導と評価の計画

時間	主なねらい・学習活動	学習活動に即した評価規準		
		知識及び運動	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
1	- 体ほぐし（ペアで，みんなで） - オリエンテーション - 単元のめあてときまりの確認 - 修行の場の確認 【鉄棒（動物園）】 - 鉄棒じゃんけん			① ②
2	- 体ほぐし（ペアで，みんなで） 【鉄棒（動物園）】 <u>どんな動物になれるかな？</u> - 鉄棒じゃんけん 【雲梯（四万十川）】 <u>どうやって渡ろうかな？</u> - 懸垂移行，上り下り，渡り方		②	
3	- 体ほぐし（ペアで，みんなで） 【鉄棒（動物園）】 - 鉄棒じゃんけん 【登り棒（スカイツリー）】 <u>どうやって登ろうかな？</u> - 上り下り，つかまり		②	
	- 体ほぐし（ペアで，みんなで） <u>3つの場でいろいろな「忍法（動き）」をやってみよう。</u> 【鉄棒（動物園）】 - 鉄棒じゃんけん - どんな動物になれるかな？		②	
			②	

	(跳び上がり・跳び下り・ぶら下がり・回転・回り下り) 【雲梯 (川)】 ・どうやって渡ろうかな？ (ぶら下がり) 【登り棒 (スカイツリー)】 ・どうやって登ろうかな？	①		
7	・体ほぐし (ペアで, みんなで) 【「忍法 (動き)」発表会】 できるようになった忍法を発表しよう ・3つの場を使ってできるようになった「忍法 (動き)」を紹介し合う		①	

7 本時の学習（5／7）

（1）本時の目標

- ・鉄棒、雲梯、のぼり棒を用いた遊びを工夫するとともに、友達のよい動きを見つけ、自分の動きに取り入れることができる。

（2）評価規準

- ・友達のよい動きを見つけ、自分の動きに取り入れている。【A 規準】
- ・友達のよい動きを見つけている。【B 規準】

（3）準備物：台、マット、回転補助具、目標物、めあてや動きのポイントを書いた巻物

（4）展開

時間	主なねらい・学習活動	教師の働きかけ・評価（☆）	支援を要する児童への働きかけ（♡）
10 分	1. 主運動につながる体ほぐしを行う ○心と身体のスイッチ ON！ ・忍者走り、スキップ ・忍者競走 ・鉄棒じゃんけん (跳び上がり・跳び下り・ツバメ・ふとん干し・ぶら下がりがり回転)	・個人で動いたり、ペア・グループで動いたりと人数や動きを変化させながら体育太鼓でテンポよく活動していくようにする。 ・腕支持や懸垂、逆さの姿勢など基礎的な感覚として身につけさせたい動きについては、ペアで動きをそろえたり、数を数え合ったりして意欲的に取り組めるようにする。 ・必要に応じてマットや台を用意する。	♡ 友達とグループで動けるように、雰囲気作りや声掛けをする。 ♡ 集団での活動が難しい場合は、担任とペアで活動するようにする。
5 分	2. 本時のめあてを確認する。	なかまといっしょに にんにんしゅ行に いざ出発！	
15 分	3. 鉄棒・登り棒・雲梯をローテーションして、様々な「忍法（動き）」で遊ぶ (3 ローテーション)	・それぞれの場で本時のめあてや動きのポイントが書かれた巻物をいくつか用意する。 ・安全に気をつけて行わせるために、周りを見て動くことや順番を守ることを声掛けする。 ・新しい動きや次の動きにつながる動きができていく姿が見られたときは、タブレットで撮影し、集合した際に確認できるようにする。 ・動きが停滞している児童には、友達の真似や、ペアとできそうな「忍法（動き）」に挑戦させるようにする。	♡ A 児用の巻物めあてを用意して意欲を高める。 ♡ チェックシートを準備し、鉄棒・登り棒・雲梯を一緒に回れるようにする。
10 分	4. グループ（自分）が選んだ場で新しい「忍法（動き）」に挑戦する。	・友達の動きで良かったところを発表させ、見るべきポイントを伝える。 ・どのようにすればいろいろな新しい「忍法（動き）」が出来るか考えさせるために、これまでに経験した「忍法（動き）」を振り返りながら活動できるようにする。	♡ 自分から進んで動けるように、興味・関心を優先しながら支援する。 ♡ 自分や友達のよさやがんばりを見つけて、自己肯定感を高めるような雰囲気作りや声掛けをする。
5 分	5. 本時の学びを振り返る。	☆友達のよい動きを見つけ、自分の動きに取り入れている。【A 規準】 ☆友達のよい動きを見つめることができる。【B 規準】	

授業の視点…3つの場で活動しながら、工夫した「忍法（動き）」を発見できていたか。

仲間とかかわり合いながら、できそうな動きに挑戦することができていたか。

8 授業後の話し合い

今回の評価規準「友達のよい動きを見つけ、自分の動きに取り入れている。」の「良い動き」が曖昧であり、子どもたちがそれを理解しているのかが疑問として上がった。例えば、「遊び方を工夫すること」が良い動きなのか、それとも「上手く跳び下りたり、回ったりすること」が良い動きなのか。今回、自分の中では前者の「工夫すること」と考えていた。

しかし、「工夫」に重きを置く授業に技術面の向上が見られるのかが疑問という意見もあった。技術を教えることは必要である。今回ならば、ダンゴ虫リレーや鉄棒じゃんけんで支持やぶら下がり、手足での移動、逆さの姿勢などを習得させていったつもりだが、そのような基礎的な動きをもっと教えた方が良かったとも感じられる。

II 研究の考察

(1) 魅力ある教材の工夫 (単元構成, 場, 教具, 評価)

「忍者」となり「修行をする」というストーリー設定とそれぞれの場の補助具により、児童は楽しく活動できた。また、忍法(動き)の名前を子どもたちが考えることが、意欲的に探していける手立てとなっていた。ローテーションの際に忍者にちなんだ BGM (1 曲が約 5 分) を流したことで、活動の時間配分の目安にもなった。

しかし、場を 3 つに分けたことで教師の目が届きにくくなるので、危険な動きはしないように忠告しておく必要があった。

巻物も子どもが楽しく活動する手立てであったが、児童が使い方を分かっていなかったのできちんと説明しておくのと良かった。ねらいを焦点化し、それに沿った教具を作るべきであった。

(2) 運動の特性に応じた動きづくり

単元を通して、鉄棒じゃんけんで跳び上がり、支持、逆さ姿勢等の動きを行うことで、全員が基本の動きを習得した。ダンゴ虫やツバメの姿勢での鉄棒リレーでは、チームのみんなで協力することで、腕の力が弱かった子も徐々に体を支持できるようになっていった。

雲梯では、渡り切れない子に対して自分のいけるところまでを選択できるようにしたり、普段上がることの出来ない上を渡り歩きしてバランス感覚を養わせたりした。危ない場面もあったが、高いところで遊ぶことを禁止されることが多くなった現代だからこそ、体育の時間に高いところの感覚を味合わせることも必要かと感じた。渡る方向を決めたり、ルールを徹底したりして行わせる必要がある。



(3) 言語活動

ペアで活動することで、教え合う姿や上手な人の真似をしてやってみようとする姿が見られた。きちんと言葉で動きを確認しながら、丁寧に動きを習得しようとしていた。

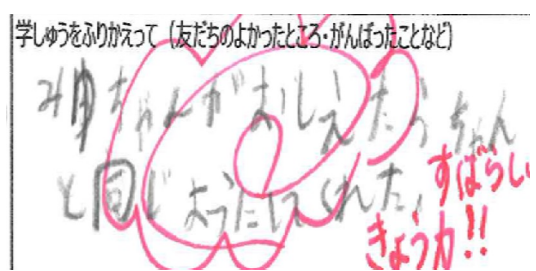
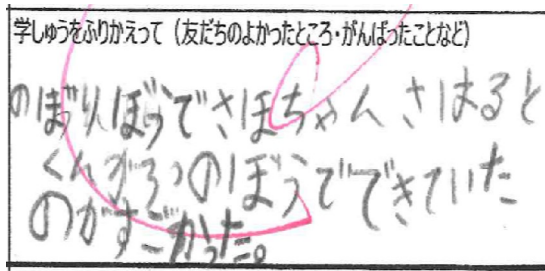
また、二人で行うシンクロやダブルの動きの時は「せえの!」などの掛け声とともに、動きを合わせる良さを感じられていた。

忍法が出来た時に、教師には報告するが友達に伝えることを忘れる子が多かったので、子ども同士を繋げる声掛けが必要であると感じた。



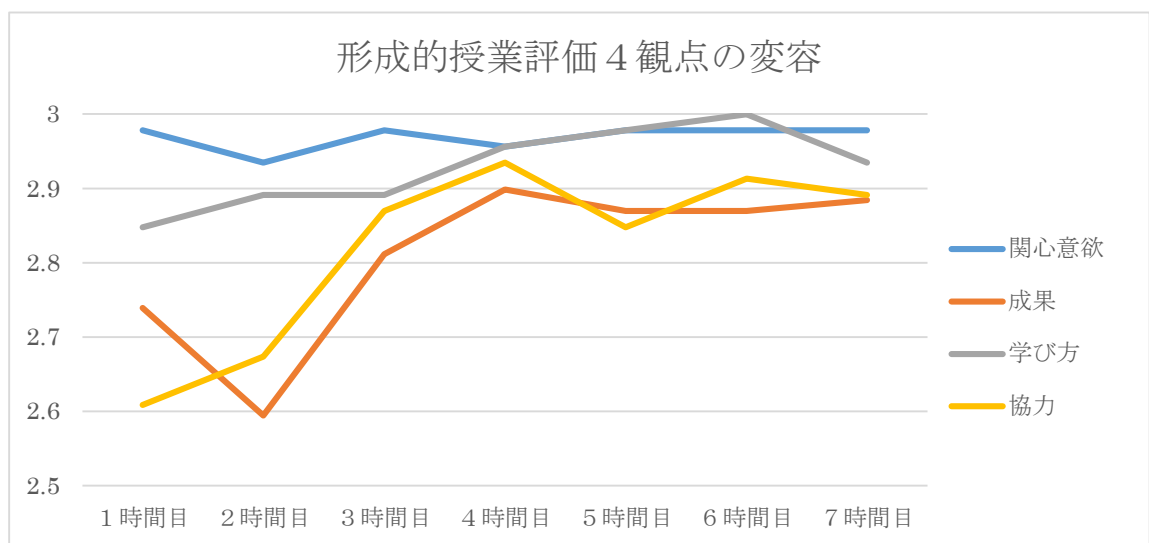
(4) 子どもの変容について

形成的授業評価の4観点の変容から、「楽しむ」の観点から、単元を通して、運動を楽しむことができている。鉄棒に苦手意識を持っていた児童も、支援することでできた喜びを感じることができていた。



「協力」の項目で、始めは運動神経の良い人同士や仲良し同士になりがちであったが、「男女で毎回ペアを変える」というルールにしたところ、誰とでも楽しもうとするようになった。能力差があるペアでも、助け合ったり、動きの良さを発見したりしながら、ローテーションができた。中には、ペアがなかなか作れない子もいたが、声掛けをするとペアを作れた。6時間目で、「グループみんなで布団干しの姿勢で手を繋ぐ」という動きをやってみたグループがあり、その点で協力してできたと感じているようであった。単元の終わりでは、グループ内での発表にしまったために、協力の意識が薄れてしまった。

また、「学び方」の項目が単元を通して良くなっており、「協力」の項目と関連してグループで学ぶ良さを感じられた結果であると考ええる。



(5) 成果と課題

今回の研究授業を通しての成果は、1つ目にその後の体育授業でのペア作りやチーム作りで「誰とでもやってみよう」とする態度が見られるようになったことである。子ども同士で教え合ったり助け合ったりする姿も、声掛けが必要な子もいるが徐々に増えてきた。

2つ目は、自分自身が苦手意識を持った児童への関わり方を学び、その子が「助けがあればできる」ことに気付いて、少しでも自信をつけることができたように思う。これからも苦手意識を感じている児童に「できた」「楽しい」と思ってもらえるよう、個に応じた支援を工夫していきたい。

3つ目は、帯タイム（鉄棒じゃんけんやリレー）を設けることで動きを身に付けることができたことである。これまでの授業内で、腕の力や体力に自信が無さそうに感じていた子も、毎時間同じ動きを繰り返すことでできるようになっていく姿が見られた。基本的な動きの習得のためには、到達させたい基準を設けてやり続けていくことが大切だと感じた。

課題としては、1つ目に3か所のローテーションにより、場が広がってしまったことが挙げられる。運動場の構造上、固定施設のそれぞれの位置が離れた場所にあるため、どうしても広範囲での活動になってしまったが、子どもたちはルールを守って楽しく活動ができた。安全面や移動の時間短縮の視点では、教師の目が届きにくい場合、離れすぎた固定施設を使用するのは危険であった。

2つ目は、できた忍法の発表をクラス内にしたため、見る側も飽きてきて7時間目の活動意欲が湧かなかったことが挙げられる。最後の発表では、忍法もマンネリ化し、友達の忍法を見ても盛り上がりせず称賛の声も少なく感じた。協力の雰囲気が高まってきていたが、その雰囲気を最後まで持続できずに終わってしまった。他学年への発表も視野に入れていたが、他学年へ発表するほどの忍法へ自分が導いてあげられなかった点が反省点である。

